

# 第18回定時株主総会招集ご通知に際しての その他の電子提供措置事項（交付書面省略事項）

連 結 株 主 資 本 等 変 動 計 算 書  
連 結 注 記 表  
株 主 資 本 等 変 動 計 算 書  
個 別 注 記 表

（2024年 1 月 1 日から2024年12月31日まで）

株式会社 I - n e

電子提供措置事項のうち、上記の事項につきましては、法令及び当社定款の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面から省略しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(2024年 1 月 1 日から  
2024年12月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,299	2,858	8,135	△0	14,293
当期変動額					
剰余金の配当	－	－	△231	－	△231
減資	△3,254	3,254	－	－	－
新株の発行 (新株予約権の行使)	5	7	－	1	13
親会社株主に 帰属する当期純利益	－	－	2,938	－	2,938
自己株式の取得	－	－	－	△494	△494
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	－	－	－	－	－
当期変動額合計	△3,249	3,261	2,707	△493	2,227
当期末残高	50	6,120	10,843	△493	16,520

(単位：百万円)

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配 株主持分	純資産合計
	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	△1	△1	39	－	14,331
当期変動額					
剰余金の配当	－	－	－	－	△231
減資	－	－	－	－	－
新株の発行 (新株予約権の行使)	－	－	△13	－	0
親会社株主に 帰属する当期純利益	－	－	－	－	2,938
自己株式の取得	－	－	－	－	△494
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△74	△74	72	－	△1
当期変動額合計	△74	△74	59	－	2,212
当期末残高	△75	△75	99	－	16,543

# 連結注記表

## 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等

### 1 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数 6社

連結子会社の名称

株式会社Dr.SYUWAN

株式会社Endeavour

株式会社トゥヴェール

株式会社Artemis

艾恩伊（上海）化粧品有限公司

I-ne US CO.,LTD.

株式会社トゥヴェール・株式会社Artemisについては株式の取得により、I-ne US CO.,LTD.については新規設立に伴い、当連結会計年度より連結子会社に含めることとしております。

### 2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

### 3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 4 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

投資事業有限責任組合出資金

投資事業有限責任組合への出資持分については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

##### ② 棚卸資産

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 5～15年

工具、器具及び備品 2～15年

- ② 無形固定資産(のれん、リース資産を除く)  
定額法を採用しております。  
なお、主な償却年数は次のとおりであります。  
ソフトウェア(自社利用分) 5年(社内における利用可能期間)  
商標権 10年
- ③ リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金  
債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金  
従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。
- ③ 製品保証引当金  
製品の保証費用の発生に備えるため、期末における保証費用発生見込額に基づき計上しております。
- ④ 事業整理損失引当金  
事業の撤退に伴い発生すると予想される損失に備えるため、当該損失見積額を計上しております。
- (4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準  
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債、収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。
- (5) 収益及び費用の計上基準  
当社グループは、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。  
商品の国内販売においては、出荷時から顧客への商品の支配移転時までの期間が通常の間である場合は、出荷時点で収益を認識しております。  
また、収益は顧客との契約において約束された対価から返品、値引き等を控除した金額で測定しており、一部のリベートについては、顧客に支払われる対価として売上高から控除しております。
- (6) のれんの償却方法及び償却期間  
のれんの償却については、その効果が発現すると見積られる期間(10年間)で均等償却しております。重要性の低いものについては、発生時に全額償却しております。

## 会計上の見積りに関する注記

### (棚卸資産)

#### 1.当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

(百万円)

	当連結会計年度
商品	3,503
原材料及び貯蔵品	435

#### 2.識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、棚卸資産については、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定しております。

当社グループでは、商品のライフサイクルを勘案し、商品の品目別に直近の販売実績から算出した回転期間が一定期間を超えるものを正常な営業循環過程から外れた過剰在庫として、一定期間を超える回転期間に対応する在庫については、当該期間に応じた一定の率に基づく簿価の切り下げを行っております。

会計上の見積りにより当連結会計年度の連結計算書類に計上した「商品」及び「原材料及び貯蔵品」はいずれも販売可能性があると判断しておりますが、当該可能性は、将来の需要予測に基づく仮定を含むため、不確実性を伴い、将来の経営環境の変動による影響を受ける可能性があります。

### (商標権の評価)

#### 1.当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

(百万円)

	当連結会計年度
商標権	866

#### 2.識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

商標権は、当社が取得したブランド（WrinkFade）に係るものです。当該商標権は、減損の兆候がある場合に、当該資産から得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と当該帳簿価額を比較することによって減損損失の認識の要否を判定する必要があります。減損損失の認識が必要と判定された場合、帳簿価額を回収可能価額（正味売却価額又は使用価値のいずれか高い価額）まで減額し、帳簿価額の減少額を減損損失として認識しております。

将来キャッシュ・フローの見積りは、同ブランドに係る新商品を含む事業計画を基礎として、顧客の新規獲得数や継続率の見込みに含まれる将来の不確実性について、一定の減額を反映し算定しておりますが、将来の経営環境の変動の影響を受ける可能性があります。

### (株式会社トゥヴェールに係るのれんの評価)

#### 1.当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

(百万円)

	当連結会計年度
のれん	7,000

## 2.識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は当連結会計年度において、株式会社トゥヴェールの発行済全株式を取得し、連結子会社化しております。

当該企業結合取引により生じたのれんの価額は、主として株式会社トゥヴェールが展開するスキンケアカテゴリにおいて期待される超過収益力であり、株式の取得価額から企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の純額を控除して算定しております。

のれんは、事業計画の達成状況を検討し減損の兆候を把握しており、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識することとしております。

将来キャッシュ・フローの見積りは事業計画を基礎とし、ECチャネルにおけるトゥヴェール社商品の拡販を主要な仮定として織り込んでおります。

当連結会計年度末において、のれんは、減損の兆候はないと判断しておりますが、事業計画や市場環境の変化により、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じた場合には、翌連結会計年度の連結財務諸表において、のれんの評価に重要な影響を与える可能性があります。

(株式会社Artemisに係るのれんの評価)

### 1.当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

(百万円)

	当連結会計年度
のれん	1,906

## 2.識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は当連結会計年度において、株式会社Artemisの発行する普通株式100株の全て（種類株式を含む発行済株式割合40%）を取得し、連結子会社化しております。

当該企業結合取引により生じたのれんの価額は、主として当社が展開するSALONIAブランドにおける今後の売上高の成長及び中間マージンの削減によって期待される超過収益力であり、株式の取得価額から企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の純額を控除して算定しております。

のれんは、事業計画の達成状況を検討し減損の兆候を把握しており、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識することとしております。

将来キャッシュ・フローの見積りは事業計画を基礎とし、SALONIAブランドの今後の売上高の成長を主要な仮定として織り込んでおります。

当連結会計年度末において、のれんは、減損の兆候はないと判断しておりますが、事業計画や市場環境の変化により、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じた場合には、翌連結会計年度の連結財務諸表において、のれんの評価に重要な影響を与える可能性があります。

## 連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 565百万円

2. 期末日電子記録債務

期末日電子記録債務の会計処理については、決済日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日電子記録債権及び期末日電子記録債務が、期末残高に含まれております。

電子記録債務 5百万円

## 連結損益計算書に関する注記

1. 事業整理損失引当金繰入額

艾恩伊（上海）化粧品有限公司の解散及び清算の意思決定に伴い、事業整理損失引当金繰入額278百万円を計上しております。

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類および総数

普通株式 17,784,270株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年3月1日 臨時取締役会	普通株式	利益剰余金	231	13	2023年12月31日	2024年3月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年3月5日 臨時取締役会	普通株式	利益剰余金	227	13	2024年12月31日	2025年3月14日

3. 当連結会計年度の末日における新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類および数

普通株式 340,740株

## 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に商品販売事業を行うための事業計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。



## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券及び出資金は、非上場の債券及び投資事業有限責任組合への出資であり、発行体の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び電子記録債務並びに未払金、未払法人税等は、1年以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金・設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で6ヶ月後であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されております。また、営業債務や借入金等は、流動性リスクに晒されております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

### ① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、販売管理規程に従い、営業債権について、各事業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の販売管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

### ② 市場リスクの管理

投資有価証券及び出資金については、定期的に発行体の財務状況等を把握しており、保有状況を継続的に見直しております。

### ③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づきファイナンス部が適時に資金繰り計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## (5) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権のうち69.0%が特定の大口顧客に対するものであります。



## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。また、現金及び預金、売掛金、買掛金、電子記録債務、未払金、未払法人税等及び短期借入金は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 長期借入金 (※)	20	20	—
負債計	20	20	—

(※) 1年内返済予定の長期借入金も含んでおります。

(注) 1. 市場価格のない株式等

(百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
投資事業有限責任組合出資金	30

(※) 投資事業有限責任組合出資金は、企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第24-16項に従い、時価開示の対象としておりません。

(注) 2. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
売掛金	8,275	—	—	—
合計	8,275	—	—	—

(注) 3. 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	10,000	—	—	—	—	—
長期借入金	20	—	—	—	—	—
合計	10,020	—	—	—	—	—

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1)時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	－	20	－	20
負債計	－	20	－	20

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

#### 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

### 収益認識に関する注記

#### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、国内事業及び海外事業に分類しており、各事業の主なブランドであるBOTANIST、YOLU、SALONIAの売上高は以下のとおりであります。

また、国内事業及び海外事業の売上高は、それぞれ43,661百万円及び1,345百万円であります。

BOTANIST	YOLU	SALONIA	その他	合計
12,984百万円	15,443百万円	10,663百万円	5,914百万円	45,006百万円

#### 2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等

4 会計方針に関する事項 (5) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

#### 3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

連結貸借対照表において、契約負債は流動負債の「その他」に含めております。契約負債は重要性が乏しいため、記載しておりません。

### 1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額 940円53銭

1 株当たり当期純利益 167円04銭

潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 163円77銭

## 企業結合に関する注記

### (取得による企業結合①)

#### 1. 企業結合の概要

##### (1)被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社トゥヴェール

事業の内容 化粧品の企画、販売

##### (2)企業結合を行った理由

トゥヴェール社は2002年の創業以来、一人ひとり違うお客様の肌悩みやニーズに向き合い、先進的で高品質な化粧品を開発・提供してきました。皮膚科学に基づき厳選した成分と配合技術の研鑽により作り上げた成分研究化粧品の展開により、売上高・営業利益共に成長を続けており、高い収益力と、高い財務健全性を維持しています。

トゥヴェール社が当社グループに加わることで、当社スキンケア他カテゴリにおけるブランドポートフォリオが拡充されます。また、当社との経営統合を通じてサプライチェーンの効率化を図り、収益力を向上します。さらに、当社の強みであるデジタルマーケティングやオフラインチャネルにおける配荷力、ブランド創出力や当社独自のブランドマネジメントシステムを最大限に活用し、EC・オフラインチャネルにおけるトゥヴェール社商品の拡販や新商品の開発を通じて、同社事業のさらなる成長を目指します。

このように本件は、両社の協業によるシナジーを創出することで、当社グループの掲げる基本方針に沿って事業を成長させ、中期経営計画の達成の確度を高めることができるものと判断し、株式を取得いたしました。

##### (3)企業結合日

2024年10月31日

##### (4)企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

##### (5)結合後企業の名称

企業結合後の名称の変更はありません。

##### (6)取得した議決権比率

100%

##### (7)取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

#### 2. 連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

2024年11月1日から2024年12月31日

#### 3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	10,000百万円
取得原価		10,000百万円

#### 4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 87百万円

#### 5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

##### (1)発生したのれん金額

7,118百万円

(注) のれん金額は当連結会計年度末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

##### (2)発生原因

主として株式会社トゥヴェールが展開するスキンケアカテゴリにおいて期待される超過収益力であります。

##### (3)償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	3,583	百万円
固定資産	103	//
資産合計	3,686	//
流動負債	805	//
負債合計	805	//

(取得による企業結合②)

1. 企業結合の概要

(1)被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社TTrading

事業の内容 美容家電等の企画開発、運営、製造及び販売  
インターネット等を利用した通信販売、卸売及び小売

(2)企業結合を行った理由

今般、TTrading社の発行する普通株式100株の全て（種類株式を含む発行済株式割合40%）を当社が取得し、株式会社東亜産業がTTrading社の無議決権株式150株（種類株式を含む発行済株式割合60%）を当面保有する予定です。それに伴い、TTrading社は当社の連結子会社となります。

SALONIAの生産管理等の機能を当社グループ内に取り込むことにより、当社グループとOEM委託先との直接取引が可能となり、中間マージンの削減によりEBITDAの改善が見込まれます。さらに、生産・品質管理機能を当社グループ傘下に置くことで、スピーディーな商品開発やQCD（品質・コスト・生産管理）の向上を目指します。加えて、上記により獲得した利益を、SALONIAブランドにおける中～高価格帯商品の開発と販売に再投資することで、当社美容家電事業のさらなる成長を目指します。

このように、本件により当社グループの掲げる基本方針に沿って事業を成長させ、中期経営計画の達成の確度を高めることができるものと判断し、株式取得を決定いたしました。

(3)企業結合日

2024年10月31日

(4)企業結合の法的形式

現金及び貸付金を対価とする株式の取得

(5)結合後企業の名称

企業結合後、株式会社TTradingは株式会社Artemisへ商号変更いたしました。

(6)取得した議決権比率

100%

(7)取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金及び貸付金を対価とした株式取得により、TTrading社の議決権を取得したためであります。

2. 連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

2024年11月1日から2024年12月31日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,438百万円
	貸付金（未収利息を含む）	501百万円
取得原価		1,940百万円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 27百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1)発生したのれんのご金額

1,939百万円

(注) のれんのご金額は当連結会計年度末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2)発生原因

主として当社が展開するSALONIAブランドにおける売上高の成長及び中間マージンの削減によって期待される超過収益力であります。

(3)償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	0	百万円
固定資産	2	//
資産合計	3	//
流動負債	1	//
負債合計	1	//

**重要な後発事象に関する注記**

該当事項はありません。

## 株主資本等変動計算書

(2024年1月1日から  
2024年12月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金
当期首残高	3,299	2,824	－	2,824	17	8,073
当期変動額						
剰余金の配当	－	－	－	－	－	△231
減資	△3,254	－	3,254	3,254	－	－
新株の発行 (新株予約権の行使)	5	5	1	7	－	－
当期純利益	－	－	－	－	－	3,076
自己株式の取得	－	－	－	－	－	－
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	－	－	－	－	－	－
当期変動額合計	△3,249	5	3,256	3,261	－	2,845
当期末残高	50	2,829	3,256	6,086	17	10,919

(単位：百万円)

	株主資本			新株予約権	純資産 合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計		
	利益剰余金 合計				
当期首残高	8,091	△0	14,214	39	14,254
当期変動額					
剰余金の配当	△231	－	△231	－	△231
減資	－	－	－	－	－
新株の発行 (新株予約権の行使)	－	1	13	△13	0
当期純利益	3,076	－	3,076	－	3,076
自己株式の取得	－	△494	△494	－	△494
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	－	－	－	72	72
当期変動額合計	2,845	△493	2,364	59	2,424
当期末残高	10,936	△493	16,579	99	16,678

# 個別注記表

## 重要な会計方針

### 1 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

##### ② その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

投資事業有限責任組合出資金

投資事業有限責任組合への出資持分については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

### 2 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び附属設備	5～15年
----------	-------

工具、器具及び備品	2～15年
-----------	-------

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

ソフトウェア（自社利用分）	5年（社内における利用可能期間）
---------------	------------------

商標権	10年
-----	-----

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。



#### 4 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

##### (3) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に係る損失に備えるため、関係会社に対する投資額を超えて当社が負担することとなる損失見込額を計上しております。

##### (4) 製品保証引当金

製品の保証費用の発生に備えるため、期末における保証費用発生見込額に基づき計上しております。

#### 5 収益及び費用の計上基準

当社グループは、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

商品の国内販売においては、出荷時から顧客への商品の支配移転時までの期間が通常の間である場合は、出荷時点で収益を認識しております。

また、収益は顧客との契約において約束された対価から返品、値引き等を控除した金額で測定しており、一部のリベートについては、顧客に支払われる対価として売上高から控除しております。

#### 会計上の見積りに関する注記

##### (棚卸資産)

##### 1.当事業年度の計算書類に計上した金額

(百万円)

	当事業年度
商品	3,145
原材料及び貯蔵品	182

##### 2.識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

「連結注記表 会計上の見積りに関する注記（棚卸資産）」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

(商標権の評価)

1.当事業年度の計算書類に計上した金額

(百万円)

	当事業年度
商標権	865

2.識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

「連結注記表 会計上の見積りに関する注記（商標権の評価）」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

(株式会社トゥヴェールに係る関係会社株式の評価)

1.当事業年度の計算書類に計上した金額

(百万円)

	当事業年度
関係会社株式	10,087

2.識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

市場価格のない株式等は、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて、評価損の認識が必要となります。また、企業買収により超過収益力を見込んで関係会社株式等の取得を行った場合には、当該超過収益力が見込めなくなった段階で、実質価額が著しく低下したとして評価損の認識が必要となります。

超過収益力の毀損の有無の判断に当たっては、投資時の事業計画の達成状況や将来の業績見通し等を総合的に勘案して検討しており、その主要な仮定は、その内容は連結計算書「注記事項(会計上の見積りに関する注記) (株式会社トゥヴェールに係るのれんの評価)」に記載している内容と同一です。

当事業年度において、株式会社トゥヴェールの実質価額は帳簿価額と比較して著しく低下していないと判断しておりますが、事業計画や市場環境の変化により、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じた場合には、翌事業年度の財務諸表において、関係会社株式の評価に重要な影響を与える可能性があります。

(株式会社Artemisに係る関係会社株式の評価)

1.当事業年度の計算書類に計上した金額

(百万円)

	当事業年度
関係会社株式	1,967

2.識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

市場価格のない株式等は、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときは、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて、評価損の認識が必要となります。また、企業買収により超過収益力を見込んで関係会社株式等の取得を行った場合には、当該超過収益力が見込めなくなった段階で、実質価額が著しく低下したとして評価損の認識が必要となります。

超過収益力の毀損の有無の判断に当たっては、投資時の事業計画の達成状況や将来の業績見通し等を総合的に勘案して検討しており、その主要な仮定は、その内容は連結計算書「注記事項(会計上の見積りに関する注記) (株式会社Artemisに係るのれんの評価)」に記載している内容と同一です。

当事業年度において、株式会社Artemis実質価額は帳簿価額と比較して著しく低下していないと判断しておりますが、事業計画や市場環境の変化により、その見積りの前提とした条件や仮定に変更が生じた場合には、翌事業年度の財務諸表において、関係会社株式の評価に重要な影響を与える可能性があります。

### 貸借対照表に関する注記

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務  
記載すべき事項はありません。

2. 有形固定資産の減価償却累計額 547百万円

3. 保証債務  
記載すべき事項はありません。

4. 関係会社に対する金銭債権債務  
短期金銭債権 478百万円  
短期金銭債務 1百万円  
長期金銭債権 1,200百万円

### 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高  
営業取引による取引高 ー百万円  
そ の 他 27百万円  
営業取引以外の取引高 74百万円

### 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式の種類および総数  
普通株式 299,631株

## 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	389百万円
返金負債	130百万円
減価償却超過額	9百万円
減損損失	148百万円
賞与引当金	137百万円
未払金	467百万円
資産除去債務	175百万円
事業損失引当金	67百万円
商品評価損	164百万円
未払事業税	114百万円
子会社株式	415百万円
投資有価証券評価損	9百万円
その他	46百万円
繰延税金資産小計	2,275百万円
評価性引当額	△182百万円
繰延税金資産合計	2,092百万円
繰延税金負債	
資産除去債務に対応する除去費用	△157百万円
繰延税金負債合計	△157百万円
繰延税金資産純額	1,935百万円

## 関連当事者との取引に関する注記

### 関連会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	艾恩伊(上海)化粧品有限公司	中国(上海)静安区	950	海外事業	直接100%	役員の兼務管理業務の受託 資金の貸付	増資の引受 資金の貸付 業務料の受取	200 350 1	子会社株式 関係会社長期貸付金 未収入金	－ 1,200 1
子会社	株式会社 Endeavour	大阪市中央区	10	国内事業	直接100%	役員の兼務管理業務の受託 資金の貸付	資金の貸付 業務料の受取	400 44	関係会社短期貸付金 未収入金	400 4
子会社	株式会社 Artemis	大阪市中央区	－	国内事業	直接100%	役員の兼務管理業務の受託 資金の貸付	商品の仕入 業務料の受取	－ 6	前渡金 未収入金	491 6
子会社	I-ne US Co.Ltd	アメリカ	103	海外事業	直接100%	役員の兼務管理業務の受託 資金の貸付	出資の引受 業務料の受取	103 8	子会社株式 未収入金	103 8

#### 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 貸付金にかかる利息については、市場金利を勘案して決定しております。
2. 艾恩伊(上海)化粧品有限公司への貸付金に対して貸倒引当金1,200百万円を計上し、関係会社貸倒引当金繰入額350百万円を計上しております。
3. 株式会社 Endeavourへの貸付金に対して貸倒引当金41百万円を計上し、関係会社貸倒引当金繰入額41百万円を計上しております。
4. 「事業の内容」には、セグメントの名称を記載しております。

## 収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報について、連結注記表「収益認識に関する注記」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

### 1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	948円23銭
1 株当たり当期純利益	174円88銭
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	171円45銭

## 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。